

地方競馬基金補助事業

豚コレラ防疫史

社団法人 全国家畜畜産物衛生指導協会

社団法人 畜産技術協会

豚コレラ防疫史

社団法人 全国家畜畜産物衛生指導協会

社団法人 畜産技術協会

発刊にあたって

我が国は、平成 19 年 4 月 1 日、国際獣疫事務局（OIE）の規定による豚コレラ清浄国として位置付けられました。

約 120 年前の明治 20 年末に、我が国で初めて豚コレラが発生し、以後平成 4 年の最終発生から、平成 19 年に清浄国となるまで、本病が明治・大正・昭和・平成と長く養豚農家の存続を脅かす大きな阻害要因となってきました。

既到大正年代中頃から豚コレラの発生は全国的に見られるようになり、その病勢も著しく、また昭和年代に入るとその発生頭数も 1 年間に 4 万頭を超える等、養豚界に大きな打撃を与え、大正中期から昭和年代における我が国の家畜伝染病の中で最もし烈を極めた伝染病の一つでありました。

第二次世界大戦後、畜産は、農業基本法で示された農業生産の選択的拡大部門の重要な柱として位置付けられました。とりわけ養豚は畜産物需要の増大の代表としてその生産拡大が鋭意図られてきましたが、豚コレラは、この養豚経営を脅かし続ける大きな不安定要素として、養鶏経営におけるニューカッスル病とともに家畜防疫上の最も大きな課題となる疾病の一つでありました。

この生産者・防疫関係者の悲願であった本病の清浄化が、ワクチンの研究開発と防疫体制の整備、防疫関係者各位の地道な活動の成果として今般結実したのであります。

とりわけ、ワクチンについては、地道な研究の積み重ねの中で国際的にも高く評価された極めて有効な生ワクチンの研究開発・製造と、卓越した診断技術の開発が行われ、この清浄化を加速させた大きな要素となったのであり、また、行政や関係機関における家畜保健衛生所の整備統合に伴う防疫体制の構築及び自衛防疫思想の法制化による各都道府県での家畜畜産物衛生指導協会の設立を通じた家畜防疫員、獣医師各位の献身的な活動も、本病清浄化促進の原動力となったのであります。

そして、平成 19 年 9 月には、本病防疫推進に特に関係の深かった社団法人全国家畜畜産物衛生指導協会、社団法人日本獣医師会、社団法人日本動物用医薬

品協会及び社団法人日本養豚協会の共催により、豚コレラ清浄化記念大会が挙行され、これまでの清浄化の道程を振り返るとともに、今後の新たな防疫の取組みに向けての提案等が行われました。また、その中でこれまでの活動への評価として、上記の4団体に対し、それぞれ農林水産大臣感謝状の授与もなされたところであります。

これまでのこの豚コレラ清浄化への取り組みは、研究、行政、団体、生産者の各位の努力の積み重ねと全ての関係者が一体となった貴重な努力の足跡として我が国家畜防疫史の上に深く刻まれるべきものであり、また、世界に誇ることできる成果であります。今後、養豚経営を取りまく状況や条件が大きく変化していく中においても、この成果は、必ずや今後の防疫活動に十分活かされていくものと確信するところであります。

本書は、今般のこの豚コレラの清浄化を一つの区切りとして、豚コレラ防疫のこれまでの歩みを俯瞰し、今後の新たな防疫対応の礎となることを期して編纂したものであります。

本書が家畜防疫に係る関係各位の今後の活動における貴重な参考となりましたならば、この上ない幸いと存ずるものであります。

本書の刊行にあたり、編纂に御尽力いただいた各位及び御多忙の中、執筆に当たられた執筆者各位に対し心より感謝申し上げる次第であります。なお、本書は、地方共同法人 地方競馬全国協会の助成により作成したものであり、同協会に感謝の意を表するものであります。

平成 21 年 2 月

社団法人 全国家畜畜産物衛生指導協会

会 長 瀧口 次郎

社団法人 畜産技術協会

会 長 山下 喜弘

発刊によせて

このたび、「豚コレラ防疫史」の発刊にあたり、本病清浄化への歴史を振り返りつつ、一言申し上げます。

豚コレラについては、明治 20 年末に我が国で初めて発生が確認されて以来、毎年全国各地で多くの感染豚が摘発され、大きな被害をもたらしてきました。こうした中で、昭和 44 年に即効性、安全性に優れた生ワクチンが開発・実用化され、養豚分野における重要疾病として都道府県家畜畜産物衛生指導協会による組織的なワクチン接種体制のもと、接種率の向上が図られました。このような国内防疫の取組と、海外からの侵入防止措置を推進してきた結果、その被害は大きく減少し、平成 4 年を最後に国内での発生は確認されなくなりました。

平成 8 年から、関係団体、生産者と行政が一体となった撲滅対策を実施し、平成 18 年 4 月からはワクチン使用を完全に中止しました。ワクチン使用の完全中止については、当初、生産者の方々から不安の声もありましたが、豚コレラ清浄化の意義を御理解いただき、関係者が一体となって取り組んでいただきました。この結果、清浄化が達成され、我が国は平成 19 年 4 月 1 日に O I E 規約に定める豚コレラ清浄国となりました。

この「豚コレラ防疫史」は、本病の清浄化達成までの関係者のご尽力とその道のりを振り返るものであります。本書の発刊を契機に、安全な畜産物を安定的に供給していくために家畜衛生分野において取り組むべきことが再確認され、消費者の「食」に対する信頼確保に向けた関係各位の取組が一層促進され、我が国養豚産業がさらなる発展を遂げますことを期待しております。

最後に、本書の執筆、編集に労をとられた方々及び豚コレラの清浄化に御尽力いただいた関係者の皆さまに衷心より感謝いたします。

平成 21 年 2 月

農林水産省 消費・安全局長 竹谷 廣之

豚コレラ防疫史

— 目 次 —

発刊にあたって
発刊によせて

本 編

第Ⅰ章 日本の豚コレラ（概説）—発生から撲滅まで—

1 豚コレラの起源	3
2 我が国の豚コレラ対策	3
3 豚コレラ清浄化の取り組み	12
4 豚コレラ撲滅の経済効果と今後の課題	18

第Ⅱ章 我が国における豚コレラ防疫の歴史

< 行政機関の取り組み >

1 我が国豚コレラ防疫の黎明期（明治期）	20
2 豚コレラの全国的発生とのたたかい（大正・昭和期）	24
3 豚コレラ防疫活動の本格化（昭和期）	28
4 不活化ワクチンによる防疫（終戦～昭和44年）	34
5 GP生ワクチンの開発と豚コレラの激減（昭和44年～平成5年）	39
6 豚コレラ清浄化の取り組み（平成6年～平成19年）	48
★ 豚コレラ生ワクチン株の取り扱いと診断薬の改良進歩	61
★ 豚コレラに対する輸出入検疫	62

< 研究開発の歴史 >

1 総 論	67
2 豚コレラワクチンの開発	88
3 豚コレラ診断技術の開発	123

第Ⅲ章 海外における豚コレラの清浄化

1 世界の豚コレラ	149
2 米国及び英国の清浄化計画	150

第Ⅳ章 今後の豚コレラ対策と研究

1 行政の視点から	163
2 今後の防疫と研究の展望	167

第V章 地域における防疫活動 —教訓と思い出—

1 地域の豚コレラ防疫史	
茨城県における豚コレラの史実——茨城県	177
その防疫の歩みを振り返って——愛媛県	181
2 豚コレラとの遭遇と防疫活動の経験	
豚コレラとの初めての出会い——福島県	184
家畜保健衛生所勤務1年目の豚コレラ防疫活動——愛知県	187
豚コレラとの出会い——埼玉県	190
私が経験した豚コレラ防疫——北海道	193
病気は現場で起きている——宮城県	197
個人的な記憶から——兵庫県	200
我が国で最後となった豚コレラ発生を振り返って——熊本県	202
3 豚コレラワクチン中止をめぐる	
豚コレラワクチン接種中止後の対応について——岡山県	205
豚コレラ疑似患畜事例における防疫手法とワクチン接種中止	
——鹿児島県	208

資料編

1 豚コレラ防疫史年表	213
2 写真でみる豚コレラ防疫活動（戦後）	223
3 データにみる豚コレラ防疫のあゆみ	239
1) 我が国における豚コレラの発生頭数の推移	240
2) 豚コレラ予防接種及び血清注射頭数の推移	242
3) 豚コレラワクチン合格量の推移	258
4) 豚コレラ関係事業の予算額の推移	260
5) 全国家畜畜産物衛生指導協会による豚コレラ防疫体制の整備状況	262
4 豚コレラ防疫の行政通知文等	265
5 豚コレラ撲滅をめざした広報資料	459
6 豚コレラ清浄化記念大会の開催	463

